

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1193200183		
法人名	社会福祉法人 晃樹会		
事業所名	らんざん苑グループホーム		
所在地	埼玉県比企郡嵐山町越畑1330		
自己評価作成日	平成 29年 8月 6日	評価結果市町村受理日	平成29年11月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2階
訪問調査日	平成29年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニットで運営していたグループホームを移転し、平成29年4月より現在の住所で2ユニットとしてスタートした。地域の方からの申し込みが多くあり、4月中に18床が満床となった。ご利用者の居住空間は1階に限定しており、災害時の避難が以前より迅速に行えるようになった。また、建物自体も地震、火災に強い鉄骨造りになっている。同法人の介護老人福祉施設の看護師と連携することでご利用者からの健康不安の相談により厚く退位王できるようになった。重度化した場合はご本人、ご家族の希望あれば介護老人福祉施設への移行もできるため安心して暮らすことができる。ご利用者は掃除や食器拭き、カーテン開け等、役割を持っており生き生きとした生活を送っていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成24年4月に現在の場所に移転し、一階に2ユニットとしてスタートした。事業所の自慢であり、利用者のお気に入りでもあるテラスからは、越畑地区の景色が一望に広がり、そのテラスへは自由に出入りができるよう、開放されている。食事は、以前と違い、調理員によって、季節感を取り入れる等工夫をした手作りの食事を提供し、好評を得ている。また、利用者全員参加のおやつ作りでは、切る、つぶす等の係を分担して、おはぎやプリンアラモードを作り、食べることの楽しさの工夫も行っている。地域との繋がりが厚く、役所からの依頼に応じたり、また、事業所行事には区長はじめ、役所、民生委員、消防署の参加もある、安心して暮らせる体制を作っている。同法人の介護老人福祉施設との連携も可能である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で毎朝、全員で理念を声に出して言うことで常に意識共有している。会議の際には理念に基づいて提案、決定をするようにしている。	職員が利用者の対応を考える時は、まずは理念から考える。常に利用者にとって、どちらが良いのかを考え「理念に基づいたら、これだよね」と立ち返る。「皆で考えたことは皆で守ろう」と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお花見スポットに出かけて地域の方と交流している。また夏まつりでは地域の方も招いて一緒にお祭りを楽しんでいる。	地元の桜やあじさいの名所に出かけたり、また事業所の夏祭りには、地域の方にも参加してもらい、交流を図っている。オカリナや傾聴ボランティア、教員実習の受け入れも行き、利用者に喜んでもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護の相談、見学は随時受け付けている。役場からの依頼で認知症サポーターの講師を務めることがある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者の状況報告や写真を見ていただきながら行事報告をしている。意見、提案があればサービスに活かすようにしている。	利用者の様子を伝える時に写真を見ながら説明をすると、家族から「もっと見たい」と要望がでたり、利用者からは、旅行の希望があった。次回の家族懇親会に旅行の案を図り、実現の予定をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険担当の課長や担当者には運営推進委員になっていただき、現状報告や事業の協力をお願いしている。認知症サポーターの依頼があれば協力して行っている。	事業所行事の敬老会、夏祭り、運営推進会議に長寿生きがい課職員の参加があり、協力関係を築いている。また、市から認知症サポーター養成講習の依頼があれば、講師として協力をし、日頃から連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各ユニット出入口や玄関は常時施錠をしており、ご利用者の求めに応じて職員が開閉している。身体を直接拘束することはしていない。「身体拘束ゼロへの手引き」を研修で使用し全員が何が拘束にあたるのかを理解してケアに取り組んでいる。	「身体拘束の手引き」を元に研修を行い、何が身体拘束にあたるのかを理解しケアを行っている。施錠に関しては、家族の理解を得て、各ユニットの出入口と玄関は、安全のためにやむを得ず施錠をし、利用者の求めに応じて開閉している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の外部研修に参加し、内部研修の場で報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は該当者はいないが、研修等には参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には身元引受人の方に十分な説明を行い、疑問点等の確認も行き、納得の上で署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との懇談会の機会を設け、要望や意見をいただき、運営に反映させている。	家族懇親会で要望や意見を聞いている。内容は、ディズニーランド、サファリパーク、富岡製紙場等旅行先の提案や、料金、明細書、居室備品等多岐にわたる。できることから相談にのり、解決を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を設け、職員全員から意見、提案、疑問点等を挙げてもらい改善点を検討している。また、随時必要なことは管理者に相談できる環境作りに努めている。	全体会議やユニット会議で、意見や提案を聞き、皆で考えている。その中で「テラスの出入り口は施錠をしなくてもよいのでは」との意見に対し、開放することにしたケース等、運営に反映をさせている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安心して業務に入れるよう各ユニット2名以上常勤職員を配置している。定期昇給、特別昇給、賞与、処遇改善費等を支給している。福利厚生への助成金支給をすることで、ストレスの緩和を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTの他に外部研修の参加を推進している。知識向上のため、担当職員を講師として内部研修を毎月行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することにより他施設の職員との交流の機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時、家族と本人の面談を行い、生活歴についてもわかる範囲で聞き取り、生きがいや趣味が継続できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時、困っていること、要望や不安をじっくりと伺い、受け止め、今後相談しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	町内や法人内の他サービスについても説明し、現在の状況で、ご利用者にとってどのようなことが必要か、グループホーム入所が適切なのかを本人、ご家族と一緒に考える。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除をしたり、おやつ作りや食器の後片付けを手伝ってもらう等、共同作業の楽しさを感じていただきながら過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間を問わず自由に来苑していただき、一緒にお茶を飲んだり、行事に参加していただいたりしている。時には一時帰宅し家族団らんできる機会になっている。受診の付き添いをお願いすることも多くある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族の入所している施設や病院への面会を職員、ご家族で協力して行っている。	お墓参りや法事への出席等、馴染みの関係が途切れないように支援を行っている。元々社交的な利用者が落ち込んでいた時に、家族の協力を得て、親しくしていた友人に来訪してもらい、とても喜ばれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の趣味や話題を見つけることのお手伝いをさせてもらい、ユニット内が仲良く温かい雰囲気になるよう努めている。席の配置を随時検討し、トラブルを未然に防ぎ、全員が不快な思いをしないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当する方はいないが、サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切に、相談、支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者の意向については本人が語る場合はそれを受け止め、語れない方でも表情や態度から推察している。また、家族からの聞き取りも大切にしている。	利用者の思いを、本人、家族や日々の生活から把握し、支援をしている。言葉での表現が難しい方は、表情や態度から察し、会議や日常のケアの中でも、何を望んでいるのか検討し、思いに沿うよう、努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に訪問し、生活環境等を確認し、これまでの経過も本人、家族、ケアマネ等から詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のモニタリングにて心身状態、新たなニーズ等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族との話し合いや、職員間の連絡、相談により現状に即したケアプランを作成している。	本人、家族、担当者の意見から入居時のプランを作成し、その後、本人に即しているか見直しや検討を行い、本プランが作成される。いつでも見直しを行うこととし、課題に対しての検討も行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記録することを基本とし、気づきや改善点については連絡ノートにより情報を全員で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズ、その時々ニーズに合わせて既存のサービスに捉われない柔軟な支援を目指している。気分転換の外出の頻度等もそれぞれ個別性を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、消防署、訪問理容、訪問歯科、傾聴ボランティア等、様々な方の協力を得ながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはご家族に対応していただいているが、難しい場合は職員が同行している。医師とは24時間の連絡体制をとっている。	月1回、訪問診療がある。医師と24時間連絡が可能であり、定期的に同法人から看護師も来ている。必要に応じて訪問歯科もある。希望で整形外科、眼科、かかりつけ医の受診支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを看護職に伝え、適切な看護や受診を受けることができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、入院中、病院関係者と連絡をとりながら状況確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末をどう望んでいるかを本人、家族と話し合っている。その後も状態によりその都度話を聴くようにしている。	入居時に事業所の方針を説明をし、本人、家族との話し合いの結果、同意をもらっている。状態の変化に応じ、家族に説明を行い、その都度、看取りについての相談も受けている。昨年看取りの経験があり、家族から感謝を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、連絡体制、AEDの使用方法について訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防総合訓練で初期消火、119通報、避難誘導の訓練をしている。それ以外に夜間の避難訓練も行っている。	年2回、消防署立ち会いのもと、地震と火災を想定した訓練を行っている。その他、法人と越畑地区合同の防災訓練も行っている。管理者が地域の消防団員を努め、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに十分配慮した声掛けや対応を心掛けている。	研修で職員全員が利用者のプライバシー保護を学び、良い支援ができるように努めている。声かけを始め、トイレのドアや脱衣室での細かなところにも注意を払っている。個人情報 は鍵つき書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、ご本人が希望や意見を話しやすい環境を作り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合に関わらず、ご利用者の意思、気分、決定を大切にしている。入浴日についても清潔を保てる範囲で、柔軟性を持たせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はなるべくご家族に用意していただき、その方らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	4月から調理員による手料理を召し上がっていただいております。ご利用者にとっても好評をいただいております。役割にひとつとして一部の方には食器洗いを手伝っていただいております。	4月より昼と夕は調理員による手料理になり、体重が増えた方もいるほど、美味しく召し上がっている。メニューには季節の食材や行事食も、とり入れている。全員参加のおやつ作りも好評で、楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、量を個別に設定し配膳している。水分量は1日1リットル以上を目安にしているが、十分に摂れていない方もおり工夫が必要。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行っている。義歯の方は夜間は洗浄剤に浸している。歯肉に腫れ等みられた時には早急に訪問歯科に診ていただき、不快な思いをしないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導の他に一人一人のパターンに合わせた支援を行い、プライバシーを傷つけないよう努めている。現在は全員がトイレでの排泄を維持できている。	一人ひとりの排泄チェック表を活用し、自立に向けた支援に努めている。定時の他、仕草や気配で声かけをし、全員トイレ誘導を行っている。骨折で入院し退院後オムツからリハビリパンツに戻す支援も行った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便チェックを行っている。水分補給や体操により、できるだけ自己排便できるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日、時間帯は決まっているが、その方の生活を尊重し、その方のタイミングに極力合わせられるよう可能な限り調整している。	基本は週2回であるが、希望や、状況に応じて、その都度入浴ができるようにしている。車椅子なのでシャワー浴だと諦めていた方が、浴槽に入ることができ、「もう入れないと思った」と、とても喜ばれた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めてあるが、起きていたい方、余暇活動を希望の方は自由に過ごしていただいている。環境を整えることで気持ちよく休んでいただきたいが、どうしても必要な方は医師と相談のうえ眠気を促す薬を処方されることもある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医に処方していただき、職員が複数人で薬チェックをすることで誤薬を防いでいる。服薬開始後の状態の変化については記録に残し医師に伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能や生活歴を活かした趣味を楽しんでいただいている。思い思いに自由に参加できるフラワーアレンジメントが人気がある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望にそって、散歩等に出かけられるよう支援に努めている。しかし天気や外気温により希望に添えないこともある。ご家族との外出は365日いつでも可能。	本人の希望に添えるように努めているが、天気や状態の都合があわず、叶わないことがある。ご家族の協力を得て、希望の場所に出掛けられるように支援している。	体調により散歩に行けない方も、外気浴をするなどで、近隣との交流を図る等の検討をし、健康維持に繋がるような支援を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご自分でお金を所持していただくことはなく、事業所でお預かりしている。お小遣いは本人が買いたいもの、必要なものに使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話は基本的には自由にできるよう支援している。本人からの電話があまりにも頻回で家族が疲弊してしまうようなケースは職員が説得するようなこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房により適切な温度を保っている。行事写真や季節ごとの飾りを掲示することが、季節を感じたり、ご利用者同士の会話のきっかけになっている。	ほとんどの利用者が、日中リビングで過ごしている。ここでは、レクリエーション、体操を行う。季節感のある作品や写真の掲示から、会話のきっかけとなる居心地の良い空間になっている。毎朝職員と利用者が掃除をして、清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合うご利用者同士で居室を行き来したり、テラスに出てお話をされたりと自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	チェストや置物等、ご本人の好みに合わせて環境を整えています。持ち込み品としてはテレビや音楽プレイヤー等があります。	居室には、低床ベッド、防煙カーテン、エアコン、照明等が備えてある。その他は馴染みの写真や机、いす等が持ち込まれ居心地よく配置されている。毎朝職員とモップがけを行い、清潔が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室を掃除していただいたり、共用テーブルを拭いていただいたり役割を持ちながら自立した生活が送れるよう工夫している。		